

# いずみニューズレター

発行元：社会福祉法人いずみ 東京都東村山市富士見町3-4-16

TEL:042-394-1868 平成30年1月発行 第9号

## 福祉施設と防火管理

社会福祉法人いずみ評議員 田口 満穂

早春の候、皆様には輝かしい平成30年を迎え、益々ご清栄のことと御喜び申し上げます。又、去年は自然災害の多い年でもありました。

新年のご挨拶を皆様に申し上げるに際し、一言ご挨拶を述べさせていただきます。

私こと、社会福祉法人いずみ 評議員 田口満穂は、福祉施設の防災業務を担当し10年余になります。平素は、皆様方にいずみの防火管理の安全管理を通じて施設の運営発展にご尽力を賜り衷心より御礼を申し上げます。

防火管理業務とは、管理権原者の下で、防火管理者の作成する消防計画に基づき自衛消防組織を編成し、消火、通報、避難訓練を定期的に実地し、勤務員の指導に当たるとともに反復訓練を実施し、体で覚えさせる訓練ほど大事なことはなく、責務を有する者として訓練指導に当たって参りました。

防火管理の基本とは、自主防火管理が基本であり、管理権原者や防火管理者など特定の者だけで防火管理を進めても効果はなく、全従業員が業務を分担し、組織的に行わなければ十分な防火管理は徹底出来ないものであり、現下の防火管理は自主防火管理が基本となっており、全従業員に至るまで任務を分担し防火管理者の元で訓練を実施しているものであります。

(1) 防火管理の進め方の基本は、次のように進める必要があります。

先ず防火管理の目的は、

① 火災を出さないことであります。火災を出さないこととは、いずみから火災を発生させないことであり、「災害予防管理」が基本であります。

② また、万一火災になったら、早く発見し、通報、消火、鎮圧することが「災害活動管理」の基本となっています。これらの「災害予防管理」と「災害活動管理」が防火管理を進める基本であります。

③ 防火管理の進め方は、自主防火管理が基本であり、防火管理者を中心とする、管理権原者、防火管理者、防火担当責任者、火元責任者の全従業員に至るまで、火災予防上守るべきポイントは、次の三つが重要な事項であります。

◎ 防火管理の進め方の三つのポイント

- ・何を守るか。(事業所の資産と利用者及び従業員の生命を守ること。)
- ・何から守るか。(火災と地震災害から守ること。)
- ・どのようにして守るか。(防災は減災にあり、防火管理者は事業所の実態を把握し、危機管理意識を高めて事業所の「災害予防管理」と「災害活動管理」を早期に鎮圧することあります。)

◎ 防火管理者は、常に事業所の実態把握と危機管理意識を高揚し、教育、訓練

を繰り返し行くと共に実行性の高い消防計画を編成することにあります。

- ・また、防火管理者は平素から日常点検、定期点検等を確立し実施するなど点検体制を確立し、自衛消防組織を鼓舞し進めることが使命とされています。

(2) 最近の火災発生状況（全国レベルの火災統計）

- ① 年間5万件前後の火災が発生しています。  
(一日当たり132件の火災が発生し、火災による死者4.5人が発生しています。)

◎① 一般火災の原因別発生状況

- (1) 放火 10.6% (2) タバコ 9.3%  
(3) たき火 7.8% (4) コンロ 7.7%  
(5) 放火疑い 7.7%

◎② 建物火災の原因別火災発生状況

- (1) コンロ 14.6% (2) タバコ 10.0%  
(3) 放火 9.0% (4) ストーブ 5.7%  
(5) 放火疑い 5.3%

(3) 火災発生に至る経過！

- ① 火災は、火気使用者の誤った感覚の中で火災を発生させています。  
・不注意（大丈夫だと思った・まさか火災になるとは思わなかった。）  
・火災は人災と言われているように（63.5%）予燃中の火気使用場所を離れるなどの不始末から火災が発生しています。
- ② 火気管理では、消火器の取扱い（20.0%）が出来ない部分もあり、初期消火技術を高める必要があり、消火訓練を反復し、意識を高揚する必要があります。
- ③ 火災は、火気使用者の誤った意識とミス等の不始末から火災を発生させています。 初期消火では4割しか

消火活動が出来ない実情にあり、反復した訓練を実施し、尊い人命や、財産を守ることが防火管理の基本であります。

- ④ 日頃の火気管理が不適切なことも火災を発生させています。
- ⑤ 平素の火気点検の未実施、消火器の取り扱いが出来ない、初期消火活動に失敗し延焼拡大させている事実もあり、防火管理の一層の意識高揚を図る必要があります。
- ⑥ 消火器等の消防設備は設置したのみでは火災は防げないものであります。（消火機器の取扱いの習熟が大事であります。）

(4) 社会福祉法人いずみの安全管理をまごし守るために！！

地域に密着した大切な福祉施設として、安心安全と期待と信頼のもとに、利用者のための福祉施設として躍進を遂げている時にあります。

吾が福祉施設は、管理権原者の基で勤務者と利用者が一致団結のもとに結束し、安全な福祉施設として、防火管理を徹底し、地域住民から信頼期待される福祉施設として、躍進を遂げて行くことが福祉施設いずみの重大な使命であります。

勤務員一同は常に結束し、防火管理を徹底し前進し、訓練に励み、利用者の安心安全な福祉施設として運営管理と防火管理を基本に、信頼される社会福祉法人いずみとしての限りない前進を進めていきましょう。

守れ「災害予防管理」と「災害活動管理」の社会福祉法人いずみ！！

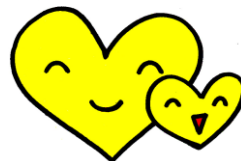
以上

(記：平成30年1月4日)

## 「スマイル」

### 野口町 17 年間ありがとう 新あゆみの家へ

放課後等デイサービス事業（こんぺいとう） 定員 10 名  
重症心身障害児対象（マカロン） 定員 5 名



平成 10 年、どんなに重い障害を持つ子ども達も、学校と家庭のみの生活ではなく、自分の住んでいる地域で放課後活動を楽しむ機会をつくってあげたいという思いから、あゆみの会が放課後クラブ「スマイル」をスタートさせました。活動開始当初は、活動場所が固定ではなく、市営住宅の集会所や富士見文化センターの部屋を借りたり、あゆみの家幼児部のフロアーを借りたりしながらの活動でしたが、平成 11 年に恩多町アパートの一室に活動拠点を設けて活動し、平成 13 年 3 月より、現在活動している野口町に拠点を移し活動をスタートしました。当初は、10.5 帖の和室のみで、5 月にサンルームを増築しました。その後、平成 14 年 12 月から、NPO あゆみが事業運営にあたり、平成 16 年 3 月に訓練室①を増築しました。又、平成 18 年 2 月に訓練室②を増築。さらに、平成 20 年 6 月に訓練室③と介助トイレを増築と合計 4 回の増築を重ね、ホップ・ステップ・ジャンプの勢いで現在の形になりました。

平成 23 年度からは社会福祉法人いずみと NPO あゆみが大合同を行い、社会福祉法人の事業運営となりました。事業形態も通所訓練等事業から児童デイサービスⅡ型を経て現在の放課後等デイサービス事業に至り、平成 28 年 4 月からは新たに重症心身障害児を対象とした（定員 5 名）放課後等デイサービス（マカロン）もスタートしています。

活動を開始して 20 年が経ち、平成 30 年度からは活動拠点を富士見町にある建物改修工事完成後のあゆみの家 2 階に移し、新たなスタートをきる事となりました。

これまで、増築に次ぐ増築で横に長い活動スペースが広がります。又、他事業所と同じ建物の中に入るので、利用者・職員共に新しい交流が期待されます。野口町での 17 年間の積み重ねを、新たな場所の基盤にして今後も充実した活動が提供できるように努めてまいります。



←現在 野口町の「スマイル」

担当：「スマイル」管理者 吉村淳

## 第4回 いずみコンサート

平成29年11月18日（土）第4回いずみコンサートを開催しました。いずみコンサートは2006年から毎年1回、計9回にわたって開催されてきた「スマイル」コンサートの『どんな障害を持つお子さんにも本物の音楽を楽しむ機会をつくりたい』という理念を引き継ぎ、2014年より社会福祉法人いずみの新たな事業としてスタートすることになった、皆さんと一緒に楽しむコンサートです。

4回目となる今回は、打楽器奏者・マリンバシンガーソングライターの新谷祥子（あらやしょうこ）さんに出演して頂きました。新谷さんはマリンバで弾き歌うスタイルによる2枚目のアルバム「Rosewood Singer」が各誌メディアで注目され、様々な番組にゲスト出演。音楽プロデュース、非常勤講師、小学校のワークショップ、ボディーパーカッション講座など幅広い分野で打楽器の可能性を展開している方です。



**新谷 祥子さん**

**打楽器奏者**

**マリンバシンガーソングライター**



**みんなで記念撮影**

当日あまり天候がすぐれない中、53名の方にご来場いただき一緒にコンサートを楽しみました。心地よいマリンバの音に心癒されたり、全員参加のパーカッション「手のひらを太陽に」で一緒に演奏したり、とてもステキなコンサートの時間を過ごすことができました。また来年、皆様と一緒にコンサートを楽しめるよう心からお待ちしております。

担当：「スマイル」 小山大志

## 感覚統合遊具をいただきました

この度、社会福祉法人東京都共同募金会様のご協力のもと、三菱電機S O C I O-R O O T S基金を介し、野間口 有様、並びに三菱電機株式会社様から、ひまわりにご寄付をいただき、平成30年1月10日、感覚統合（Sensory Integration）遊具、i P a dの贈呈式がありました。

ひまわりの重症心身障害児療育の事業にご理解頂き、又、過分なる御厚意を頂き、法人職員一同感謝の気持ちでいっぱいです。

贈呈式の後には、早速子どもたちは遊具（パシフィックサプライ製）とi P a dで遊びました。みんな笑顔いっぱいにとっても喜んでいました。季節天候を問わずいつでも室内で使用できるので、運動遊びに、感覚遊びと、いっぱい使わせて頂きたいと思います。

ありがとうございました。



ひまわり贈呈式

右：三菱電機総務部長  
黄檗 満治 様  
左：当法人福岡理事長



感覚統合遊具と一緒に

三菱電機総務部 社会貢献推進課  
課長 田中 康雄 様、平岡 美緒 様及び、  
東京都共同募金会 近江 様と当法人役員、  
ひまわり事業職員、利用児、御家族

担当：ひまわり施設長 平野雅彦



# 硝子戸の向こう

連載企画 第9回  
理事長 福岡憲二

## 社会福祉てんでんこ

2011年、平成21年3月11日午後2時46分は、マグニチュード9.0の東日本大震災が発生したまさにその時。私達にとって忘れることのできない、悲しくも歴史的な時刻です。

この震災では岩手県釜石市市内の小中学生のうち、当日登校していた生徒のほぼ全員が助かりました。生徒たちは、日頃から「津波てんでんこ」を標語に、防災訓練を受けていたので、地震の直後から教員の指示を、いたずらに待つのではなく、一目散に避難を開始しました。

当初、一部の生徒は、校庭に整列しようとしたのですが、副校長らが「逃げろ」「走れ」と懸命に指示し、その結果全員が校門を出て、高台の避難所へ駆け出したそうです。これがてんでんこです。(注：てんでに＝手に手に、の転。各自、めいめい、それぞれの意。広辞苑)

一般的に災害発生時は、住民避難の為の場所確保、食糧、飲料水の手配他、日常生活に必要な施設、設備などの設営、準備は市町村、都道府県、国など公けの機関が乗り出します。

しかし災害の初期、緊急時ではこれらの出動を待っているのではなく、個人個人めいめいがアクションを起こし、隣人に伝え、協力し合い、協力の輪を大きく膨らませながら公けの支援に結び付けていくことが必要です。

つまり、自助から始まり、自助があつてこそ共助に繋がり、共助の複数化、大型化と共助の充実、成長が次の公助、すなわち公的機関の重層的な支援に発展する。これが一般に「自助、共助、公助」とよく言われる支援の発展系の真の意味であると聞いています。

福祉制度を利用する障害者やその家族が、近年様々種類の充実してきた福祉サービスの、それでも、そこそこにある「谷間」について「公助がない。公助がないと共助もできない。共助がないから自助ができるはずもない。」という声を上げるのを聞きます。特別な福祉支援などではそういうこともあるのでしょ

うが、一般的な支援をこの順序で思考していく限り、不満は解消しないでしょう。家族には「谷間」でも、サービス提供側から見れば個々の努力で十分解消できる「隙間」でしかない場合があると。関係者にとって厳しいことですが、社会福祉制度はその対象者の「自立」が前提で成り立っていることを自覚せねばなりません。

1950年、昭和25年10月、大内兵衛 社会保障審議会会長が吉田茂首相に提出した戦後初めての、いわゆる社会保障制度の「50年勧告」は戦後の日本の社会福祉制度の行く末を明確に示した嚆矢の政策提言ですが、やはり根本は、国民個々人の「自律と更生」でした。現在のいわゆる「自立」です。

視点を将来に向けると、我が国に特徴的な少子高齢化の、その向こうに見える人口減少時代はどうか。(2010年人口12806万人、2065年8808万人、2115年3787万人低位推計、国立社会保障人口問題研究所2017版)

現在の社会保障制度の中心の公的年金制度は、若い世代が高齢者の年金負担を荷なう賦課方式で成り立っています。人口減少が右のごとく、50年後には4000万人減少するとなると、国民年金、厚生年金、公務員の共済組合などの年金源泉が担保出来なくなります。公的年金にすぎたままの現状から脱却、自立の道は、現在のロードマップにはまだ記されていません。

国際的な観点からみると、ますます不安が募ります。北朝鮮の不穏で挑戦的な動き、東西どこでも勃発しかねないテロリズム、グローバリズムから正反対の孤立的、独善的なオポチュニズムの台頭などで、アリソン ハーバード大教授のトキデデスの罠(注；覇権国と台頭する新興国の間で緊張が高まり誤算などがきっかけで戦争に至る事、スパルタとアテナイのペロポネソス戦争を描いた歴史家のトキデデスの名前から)となって第4次世界大戦の懸念が議論されています。我々の、家族のシェルターは誰が用意するのでしょうか。どこにあるのでしょうか。

世界的な文明自身が不安定な現在、人口減少化の時代突入のとば口にある現在、障害者とその家族は勿論、社会福祉の関係者は、一層の事、てんでんこに自分なりの努力を、何よりもまず実行していくことが、益々求められる所以です。

2018年1月17日

## 東村山市民駅伝大会に法人いずみ参加

平成 30 年 1 月 14 日、突き抜ける様に晴れ上がった日曜の朝、狭山公園の外周をコースとする、第 29 回東村山市民周回駅伝大会の一般男子の部に法人いずみの職員有志 5 名（男性 3 名、女性 2 名）が昨年に引き続き混成「チームいずみ」として参加しました。第 1 走者は 1 週 2.1 km のコースを 2 週。第 2～第 5 走者は 1 週を走り、襷をつなぎます。日頃から個人で様々な大会に参加しているベテランランナーの他、昨年、地域の大会にチームで出場しようとの誘いから参加した職員、昨年の話を聞いて今年初出場の職員、そして、監督や応援団として参加する職員やその家族等、日頃、走っていない人達も和気あいあいとレースを盛り上げました。

結果は昨年の 25 チーム中 24 位から、大きく成績を伸ばし、30 チーム中 11 位。個人記録を出場者全員が更新しました。早くも来年に向けて闘志を燃やす職員や、話を聞いてちょっと走ってみたいなど、皆で走る楽しさを共有したいと思う職員も。当日は寒冷前線の影響で気温は上がらず寒い 1 日でしたが、お天気は快晴で、心も軽やかになるさわやかな 1 日となり、今年初めのホットな話題となりました。



参加者全員（選手・職員・家族）



第 1 走者 Looking Good!

訂正：ニュースレター第 7 号に掲載されました、法人へご寄付を頂いた方の中で、朝比奈様のお名前で記載したものは、スマイル保護者一同様から頂きましたご寄付でした。右、訂正申し上げます。

～編集後記～ 寒さ続く候、新年を迎え、皆様はお正月をどのように過ごされましたでしょうか。寝正月、帰省、もしくは旅行など楽しまれたでしょうか。もしかしたら、体調を崩されていたという方もいたかもしれませんね。昨年は、いずみホール建設・つばさ改修工事が完了。今年 3 月にはあゆみの家の大規模改修工事も終わり、新たなスタートを 4 月から迎える、楽しみな 1 年の始まりです。

「スマイル」管理者 吉村 淳

※写真は許可を得て掲載しています